

学校名：中央区立豊海小学校

所在地：中央区豊海町3-1

校長名：村上 隆史

児童数 844

学級数 25

教員数 47

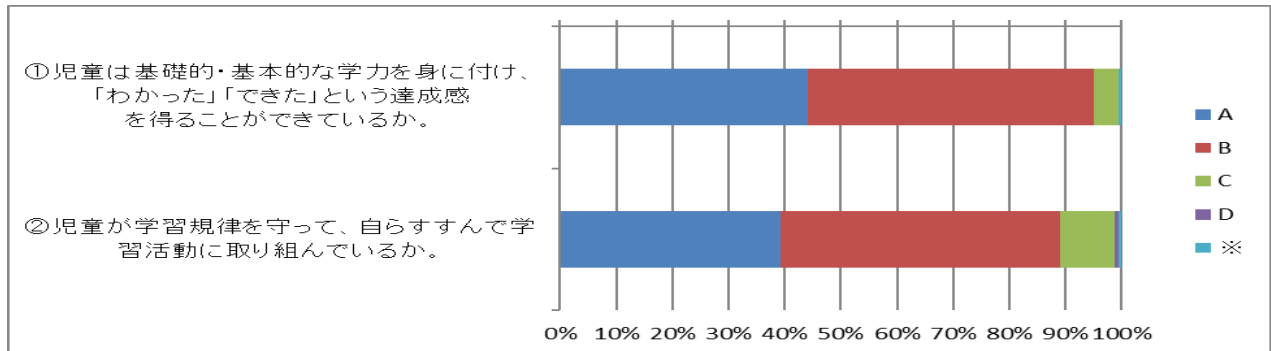
職員数 8

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 【基礎的・基本的な学習内容の理解と確かな学力の定着】

評価項目 ①個に応じた授業展開の工夫

②集中力や持続力を発揮して学習に取り組む力の育成



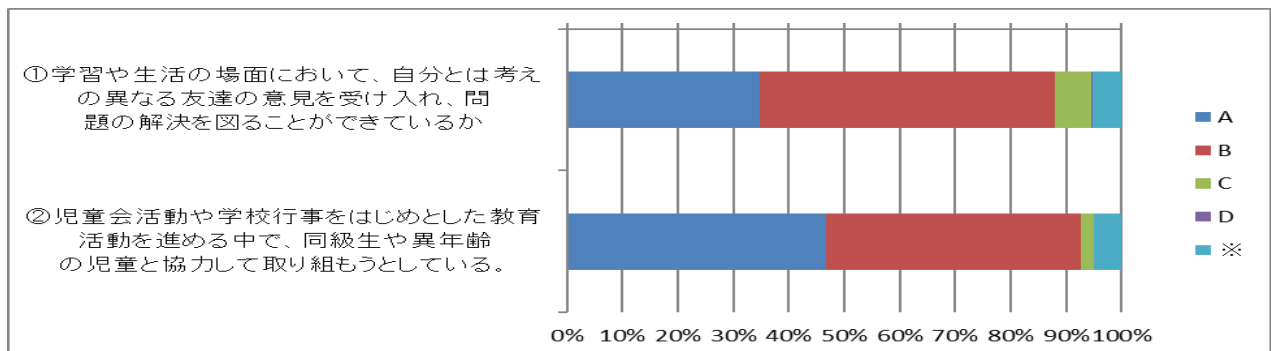
「学習理解」に関する質問では、昨年度と同じく保護者、児童とも約95%の肯定的な評価であった。区の学力調査（4～6年）では全国平均を上回る結果であった。算数科については、個別の指導が必要な児童への支援として、今年度豊海塾（放課後補習教室）を立ち上げた。令和3年度は実施回数の増やし、1人1台のタブレット端末を活用した取組を進める。また、国語科については、朝の基礎・基本の時間等を活用して、個別対応をしていく予定である。

「学習規律」に関する質問では、保護者、児童ともに約90%が肯定的な評価であった。「豊海スタンダード」を確認しながら児童が主体的に活動を進めてきた。令和3年度は、月別の重点目標を定めて取り組む。

重点目標2 【自他の生命を尊重する態度の育成】

評価項目 ①多様な価値観を受け入れる心の醸成

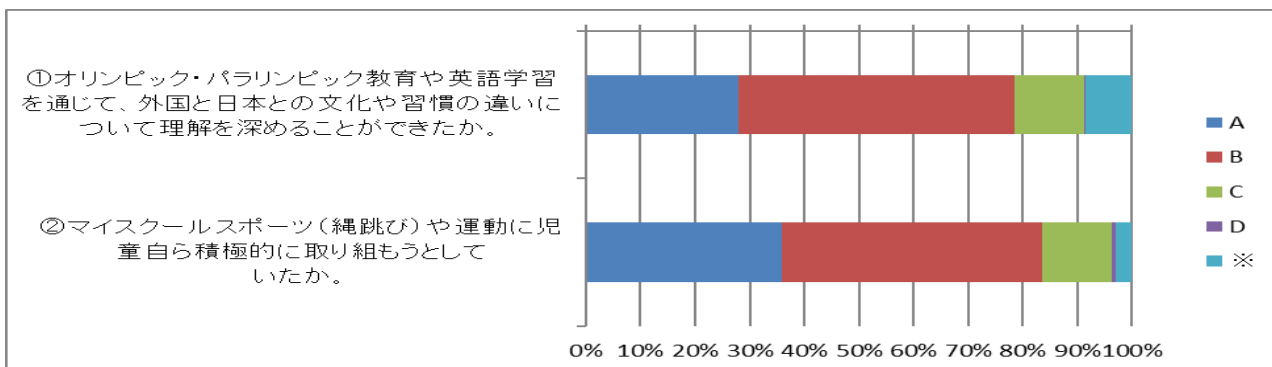
②他者と協働して取り組もうとする力の育成



いずれの質問項目についても、保護者、児童ともに約90%の肯定的な評価であった。コロナ禍ではあったが、今年度から異学年交流として兄弟学級を決めて活動を開始し、いずれの学級でも児童が主体的にできることを考え、リモートや手紙等の工夫を凝らした交流ができた。また、今年度は多くの学校行事が中止となってしまったが、スローガン「だれかのために行動する豊海っ子～コロナに負けない豊海小～」を掲げ、今自分にできることは何なのかを考えながら行動する児童が多くいた。令和3年度は、コロナ禍でもできる工夫を模索していく。

### 重点目標3 【オリンピック・パラリンピック教育を通じた国際感覚の醸成と体力の向上】

- 評価項目 ①ブラジルとの交流をはじめとしたオリンピック・パラリンピック教育や英語学習を通じた豊かな国際感覚の醸成  
②体育や休み時間等における運動に取り組める環境の整備



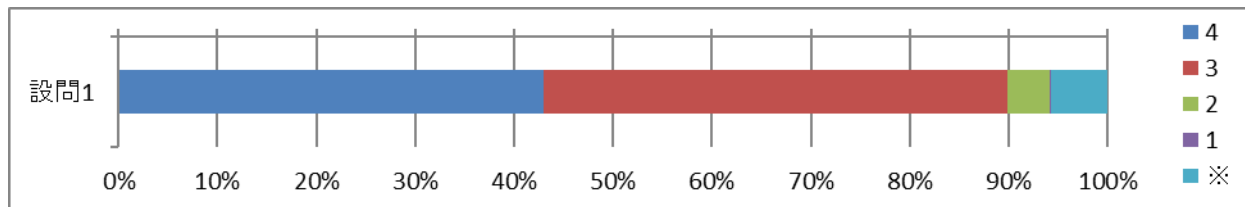
「外国と日本の文化の違い」の項目については、前年度に比べ保護者、児童ともに肯定的な評価の割合（保護者82%→78%、児童94%→89%）が下がった。今年度は、外部の講師を招いたオリンピック・パラリンピック教育ができなかったこと、英語学習における外国人との交流の機会を設定できなかったことも影響していると考えられる。

「マイスクールスポーツ（縄跳び）」の項目は、昨年度に比べ保護者（85%→84%）は横ばいであったが、児童の肯定的な評価の割合（94%→76%）が大きく下がった。休み時間の外遊びの減少、長縄跳びの取組の縮小も大きく影響していると考えられる。

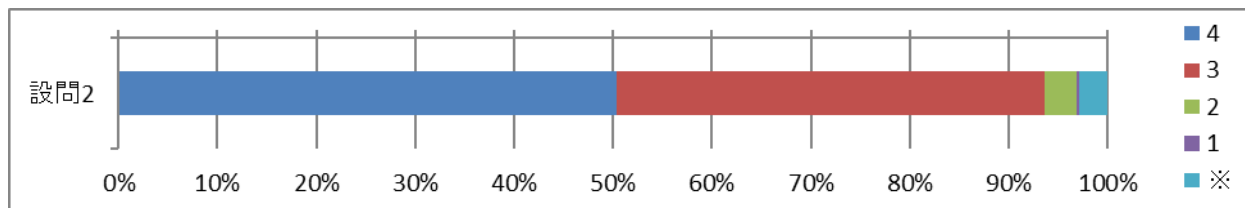
令和3年度は、延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック」が実施される。制約のある中ではあるが、できることから順次再開していきたいと考えている。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

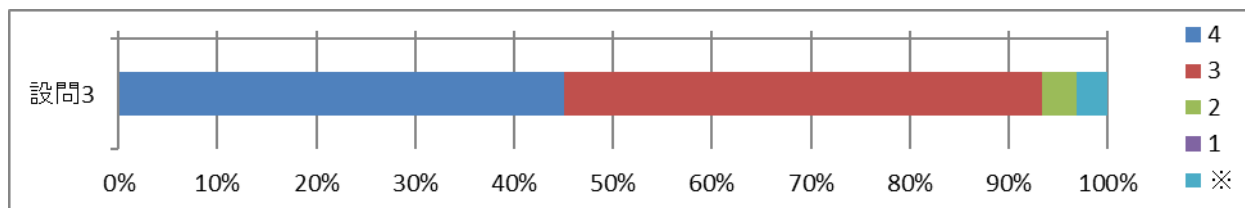
①学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。



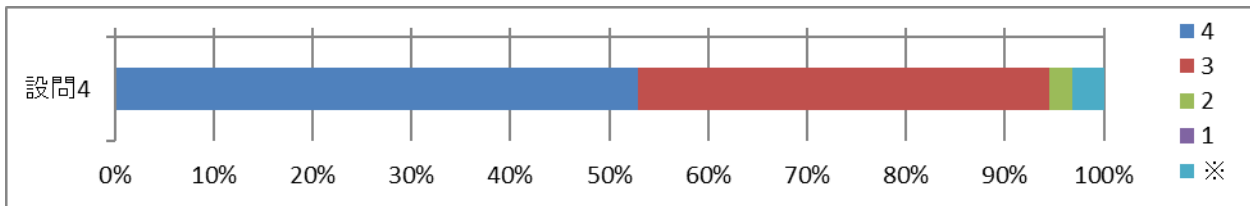
②学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。



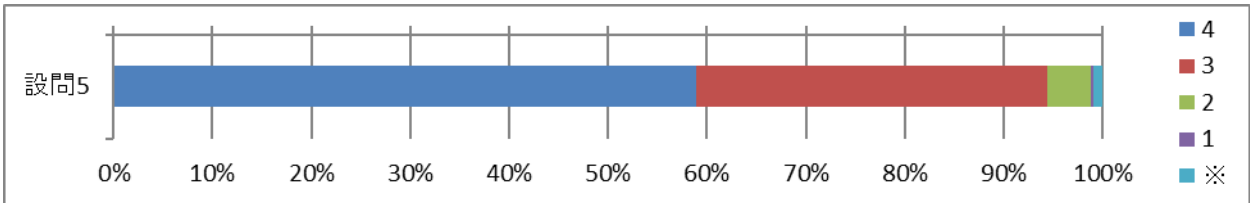
③学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している。



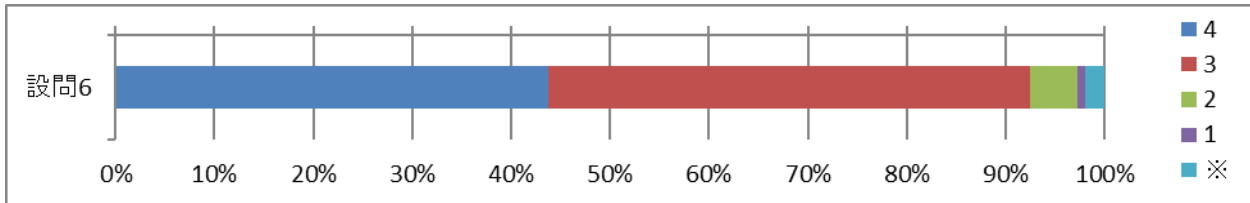
④学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。



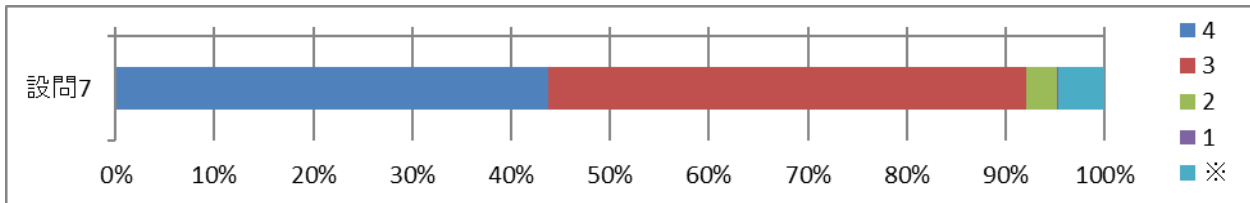
⑤児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。



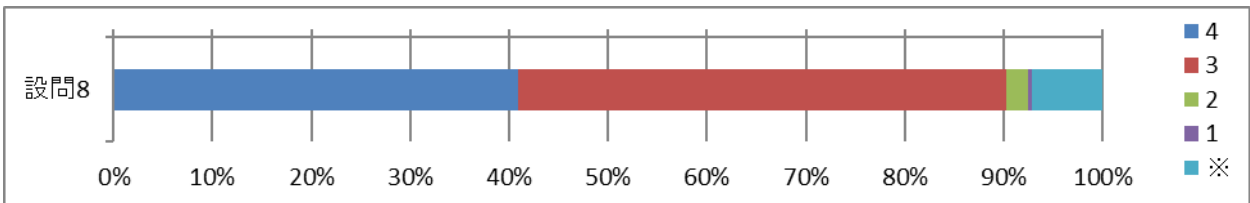
⑥学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



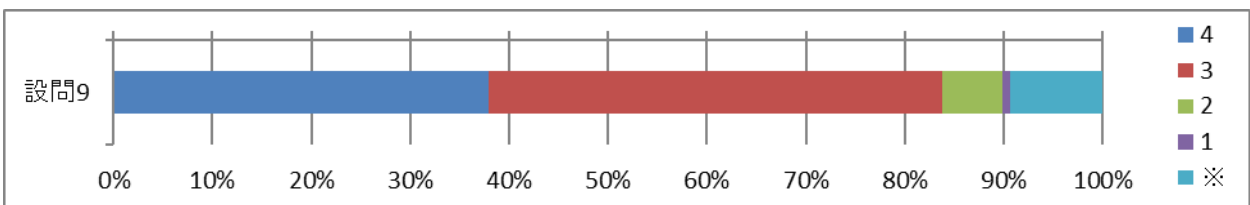
⑦学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。



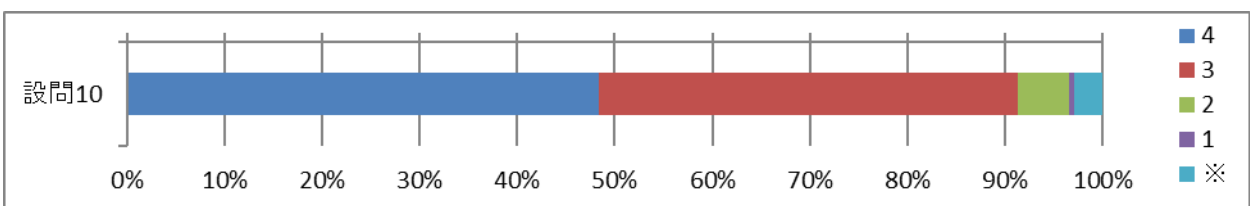
⑧学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。



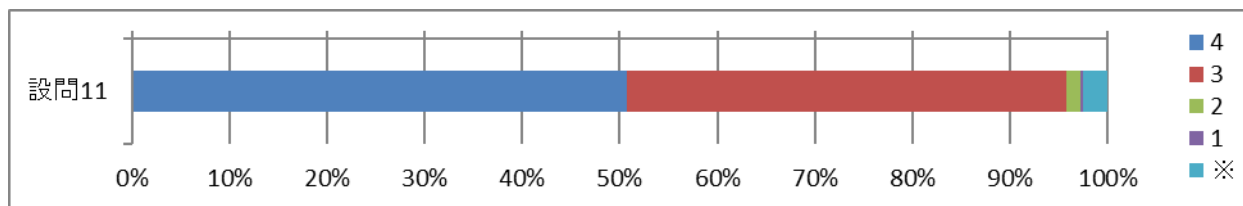
⑨学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談ののったり指導したりしている。



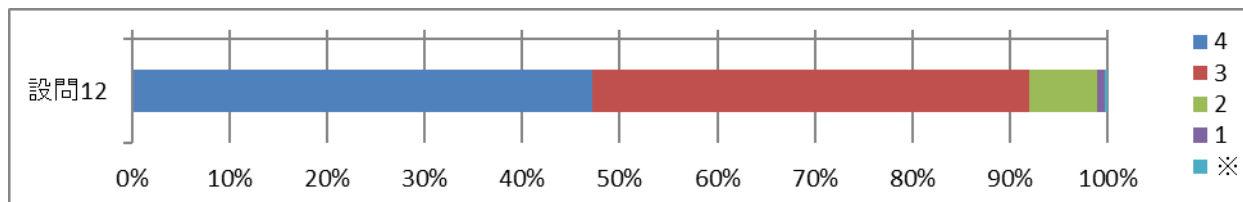
⑩学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。



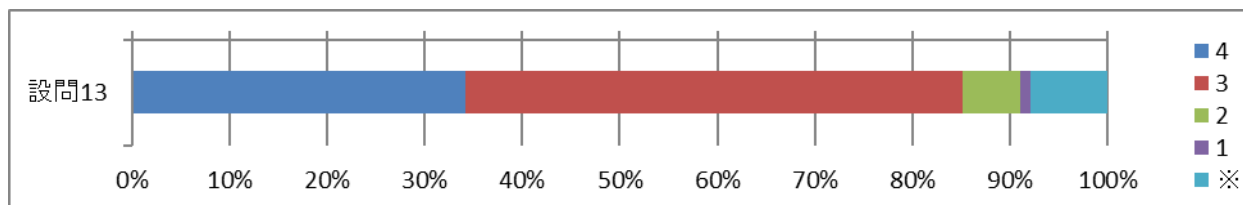
⑪学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。



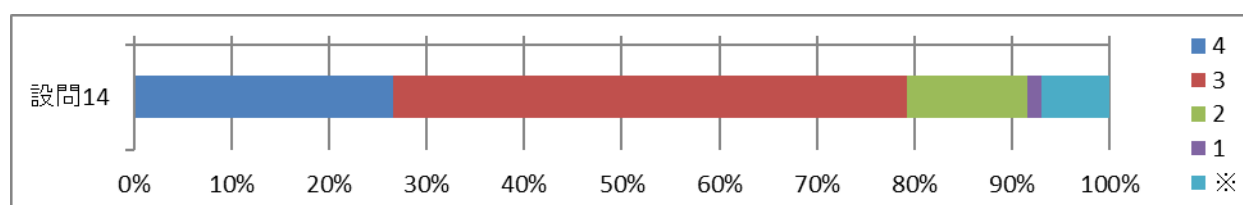
⑫学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である。



⑬学校は地域を生かした教育活動や行事がある。



⑭保護者は学校の教育活動に積極的に関わっている。



重点目標と同様、※印の「よくわからない」の回答が昨年度に比べて増えている。これは、コロナ禍の影響で学校公開や学校行事等が中止になり、保護者が来校する機会がほとんどなかったことで評価がしにくい状況であったと考えられる。

このような中、多くの設問で肯定的な評価が8割を超え、9割を超える項目も多くあった。中でも設問⑪「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。」については、95.8%の評価をいただいた。新型コロナウイルスの感染防止対策の取組を高く評価いただけたと考える。

一方で、設問⑩「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。」は83.9%に留まった。本設問は昨年度も8割台の評価であった。9割を超え10割に近付けるよう一人一人の教職員が今一度、児童の心の変化に気づき、寄り添い対応できるよう徹底していきたい。

この他、設問⑬「学校は地域を生かした教育活動や行事がある。」が昨年同様約85%の評価であった。今年度は開校40周年の節目でもあり、地域と連携した行事も予定していたが、多くの行事が実施できない状況であった。しかしながら地域の防災フェアの際に3年生で実施した「朝潮運河クルーズ」や豊海水産振興会と連携した1年生の「海藻おしば教室」、学校の前に停泊している共勝丸が小笠原諸島へ物資を運んでいることを取り上げた4年生の社会科の学習など、この地域ならではの取組など実現できたものもあった。今後も豊海、勝どきの地域の皆様と連携しながら、特色ある教育活動を展開していきたい。

### 3 今後の改善方策

令和2年度は、4・5月が緊急事態宣言で休校というかつて経験したことのないスタートとなった。また、学校再開後も感染防止対策を徹底しながらどのように教育活動を進めていけば良いのか、日々模索していた状況であった。令和3年度もコロナ禍での教育活動を余儀なくされるが、学校評価も踏まえ、以下の観点で教育活動を進めていくこととしたい。

#### ① コロナ禍に対応した学校行事の実施

令和2年度は、区の方針もあり、運動会や学芸会をはじめとする学校行事の他、移動教室や臨海学校、セカンドスクールの宿泊行事や校外学習が軒並み実施できなかった。学校行事は児童の心身の成長に欠かせないものである。令和3年度は、三密を避けるなど徹底した感染防止対策を施すことで、これまでの一堂に会してとはならないが、児童が満足できるような行事を実施していく。

#### ② 保護者や地域の方々の来校機会の創出

令和2年度は、6月の学校再開時の保護者会や個人面談を除き、来校いただく機会がもてなかった。また、予定していた学校公開も密を避けるため実施できず、12月にオンラインによる授業参観を実施するだけとなってしまった。そのため、学校の様子が見えないというご意見を多数いただいた。令和3年度は、学校行事や学校公開などの実施方法の工夫と合わせて、児童の学習の様子や生活が分かるよう、来校いただくための機会をつくっていく。

#### ③ タブレット端末を活用した取組

GIGAスクール構想とともに、コロナ禍もあり、令和3年4月からは1人1台のタブレット端末が整備される予定である。今年度各学級に整備されたプロジェクターとともに、ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく必要がある。そのために、現在配置されているICT支援員を活用する。また、学習履歴などの教育データを活用した児童一人一人に応じた個別最適な学びの充実を図っていくとともに、タブレット端末を毎日持ち帰ることから手紙の配布やアンケートの回収・集計など、家庭との連携にも役立てていく。

#### ④ 地域との連携

今年度開校40周年を迎える中で、豊海・勝どきの地域の方々に支えられている学校であることを強く感じる事ができた。学習指導要領には「社会に開かれた教育課程」の実現を通して子供たちに必要な資質・能力を育成するとある。中でも教育活動の中に、地域等の人的・物的資源等を活用しながら効果的に進めることが大切であると言われている。朝潮運河に囲まれ、東京湾を望む本校の立地を生かさない手はないと考える。その端緒を築くことができた今年度の取組をより発展させ、来年度は地域と連携したカリキュラムを教育活動の中に取り入れていきたい。